

「第4回 食品産業もったいない大賞」



応募名称

輸配送時のもったいない待ち時間削減のための「入荷受付システム」の導入

会社名、事業場名

国分グループ本社株式会社

東京都中央区 / <http://www.kokubu.co.jp/>

■ 具体的な取組内容 ■

昨今、各社とも「ドライバー不足」による物流の持続性が大きな課題になっています。特に、食品業界においては、鮮度維持のために少ロット多頻度納入が多くなり、また積載率向上のための手積み手下しが多くなるなどの課題を抱えています。物流の要となる流通センターでは、入荷におけるメーカー別アイテム数の多さにより「入荷検品時間」がかかり、その影響で「トラック待ち時間」が非常に長くなっているセンターが存在するのが現状です。

このような入荷車両・ドライバーへの「もったいない」状況を改善すべく、「入荷受付システム」の導入を開始致しました。

当社では、①拠点別・温度帯別の入荷車両誘導のシステム化、②入荷受付状況の参照と待機時間の有効活用、③入荷車両のデータ化を目的として、2012年10月、神奈川県にある藤沢流通センターに「入荷受付システム」を初めて導入したあと、現在は全国計6拠点に導入展開しています。

同システムは、基本的に「総合センター」(※注)に設置しています。

(※注)「総合センター」とは、常温・低温・冷凍を単独もしくは温度帯複合で稼働できる規模を有したセンターを指しています。本運用実施により、主に下記について改善・貢献しています。

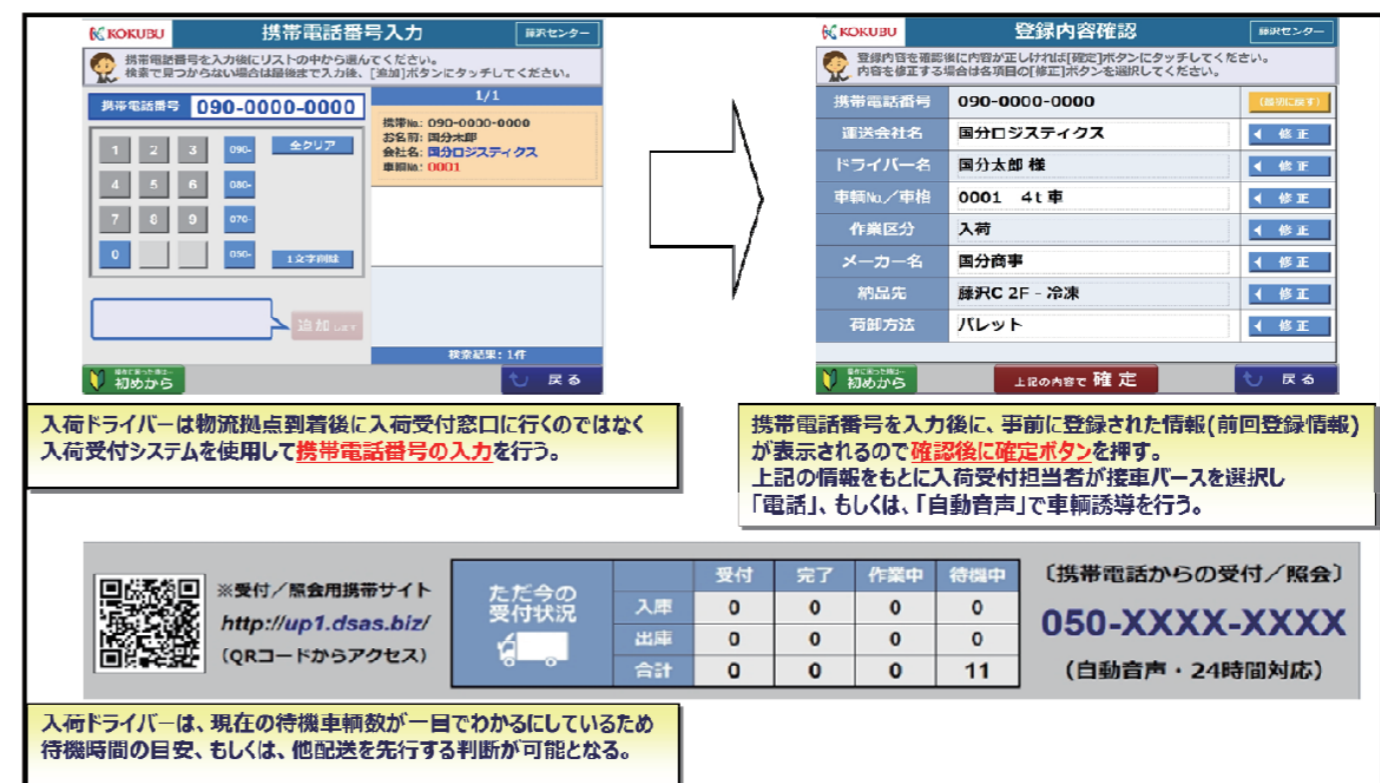
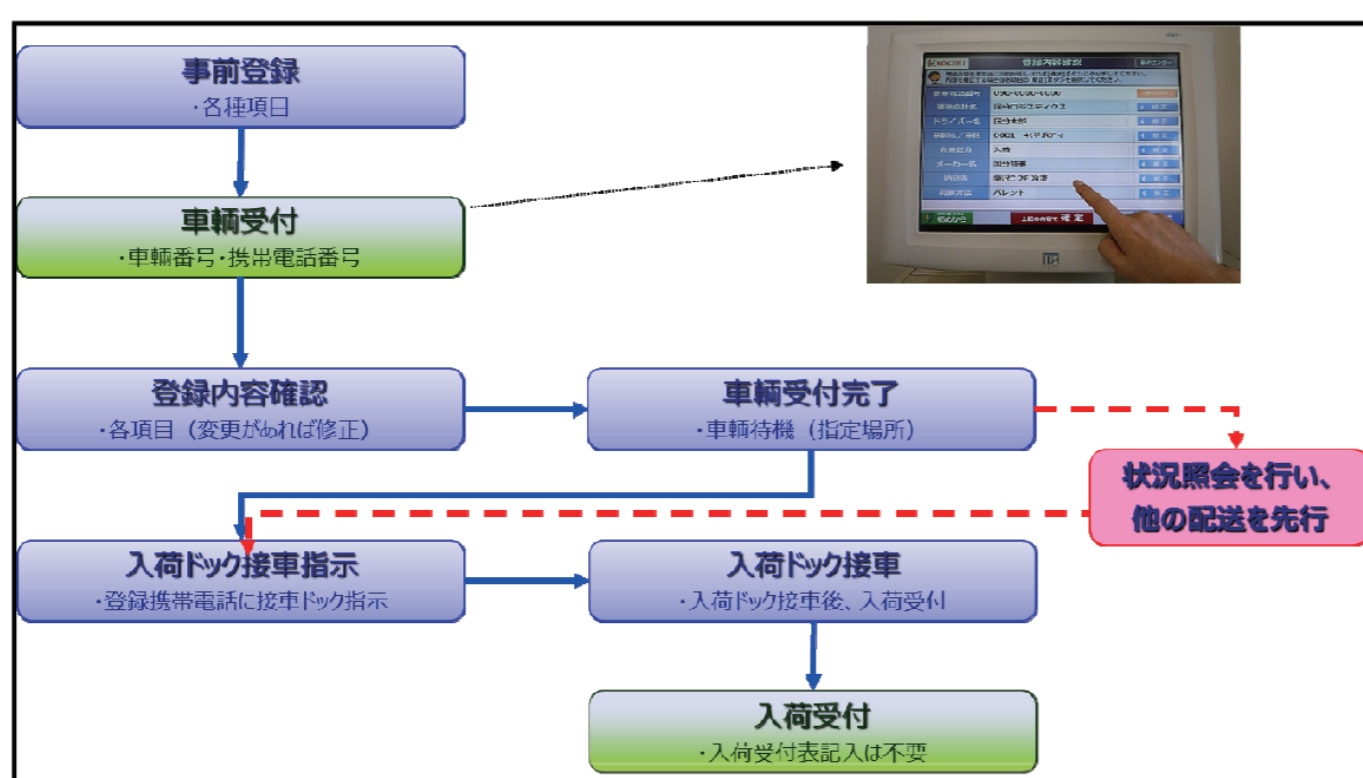
- ・ 入荷メーカーの入荷受付業務が効率化 (車両待機時間が短縮化)
- ・ ドライバー・車両拘束時間の短縮
- ・ 車両ガス排出量削減 (CO₂削減)
- ・ 燃料費削減

同システムを導入した総合センターにおいても下記のように改善されています。

- ・ トラック誘導スタッフの抑制
- ・ 入荷業務が平準化され入荷受付業務 (検品作業・商品格納作業) 適正なシフト配置の実現
- ・ 近隣企業、住民などへの騒音抑制

同システムを導入し、入荷実績 (入荷時刻・荷卸し時間・物流企業名など) に係るデータ収集が可能となり、更なる業務最適化を目指して参ります。

また今後、当社のみならず、食品卸業界全体に同システムが普及することにより入荷メーカー (ドライバー) の負担軽減効果の拡大が期待されます。



入荷受付システム運用イメージ図

■ 評価 ■

ドライバー不足と言われている昨今、一方では「ドライバーが待たされる・トラックが走っていない」という「もったいない」状況にあるのも事実です。特に小口多頻度納入が要求される食品業界では物流の効率化が求められています。この問題への解決策となるシステムを開発・導入し、ドライバーの負担軽減、時間の短縮、環境負荷の低減につながっている点が高く評価できる。食品卸業界以外にも普及していくことが期待される。